

令和5年度 学校評価報告書

丹波篠山市立味間小学校

校長 足立 真一郎

1 学校教育目標等

夢や目標を持ち、将来にわたって学び続ける児童の育成
～大好き自分・大好き友だち・大好き味間～

2 今年度の重点目標

- (1) 夢や目標をもち、自立して未来に挑戦する児童の「生きる力」を育む
- (2) 確かな学力の育成をめざし、自ら学び自ら考える授業を創造する
- (3) 児童が持っている良さや可能性を引き出し、望ましい生活習慣の定着を図る
- (4) 保護者・地域との連携を深め、ふるさと味間に根ざした「地域とともにある学校づくり」を探究する。
- (5) 安全安心な学校づくり・学級づくりを基盤とした、豊かな人間関係と人権感覚を育成する。
- (6) 自分の健康や体力に興味をもち、体育やスポーツ活動の楽しさや喜びを味わわせ、体力・運動能力の向上を図る。

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
キャリア教育	児童に夢や目標を持たせ、学ぶことの意義について指導している。	B	様々な学習活動で児童一人ひとりの言動に目を向けたり、耳を傾けたりしながら、学校生活全体を通して、児童が夢や目標を持って取り組めるように指導していく。
学習指導	児童一人一人が、1時間の学習に満足できる授業にする。	B	全教員参加の授業研究を2回実施できるようにした。そのことにより、授業改善について全校での共通意識のもと推進出来ている。校内巡回によるOJTや学団での学び合いを工夫していく。
	児童が、主体的、対話的で深い学びができるよう指導方法を工夫している。	B	児童が自分の意見を発表できるような学級づくりを心がける。グループ学習の充実や意見や考えを伝え合い、学び合いたくなるような授業を行う。
生徒指導	いじめを許さない楽しく明るい学校生活を送れるよう指導を行っている。	A	学団会議やいじめアンケートを活用し、いじめの早期発見・早期対応により解消できた。
	専門家(SC・心理士等)との連携による児童理解と組織的な対応の充実を図る。	A	専門家を交えたケース会議により、組織的な対応による環境調整など効果が上がった。また、心理士による教育相談の助言を生かした児童理解や指導方法の工夫改善ができた。
ふるさと教育	丹波篠山のよさを児童が見つけられるように、地域の人・もの・ことを積極的に授業に活用している。	C	感染対策の緩和により、地域と連携した学習機会を、地域の人材を学校に招いたり、インターネット等を活用したりして、ふるさとについて学べる機会を増やしていく。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

- ・1年を通して、運動場で元気に遊んでいる子どもたちが多くいる。元気に楽しく過ごせていることが何よりありがたい。
- ・150周年記念歌や児童会行事、あいさつ運動など児童が自分たちで考え、様々な活動に主体的に取り組んでいることは良いことである。これからもそうした力を大切に培ってほしい。
- ・地域のことを学ぶふるさと教育に、地域としてはできる限りの協力をしていく。コロナ禍でできなかったことを、少しずつ工夫して地域を知る学習に取り組んでいただきたい。
- ・安全上の課題に対して、関係機関に要望書を提出して、改善に向けた取り組みを始めていけたことは良かった。できることを考え、取組を続けてほしい。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・子どもたちは元気に明るく過ごせていることは地域としてもうれしい。
- ・先生や子ども、保護者の意識のずれは当然出てくるが、結果について前回と比べてどうだったかを分析してほしい。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none">・子どもたちの意見を先生がしっかり聞いて進められている。参観した授業でも子どもたち同士が考えることをしていた。・グループ討議なども積極的に取り入れて、話し合いで考えを交流するような授業をこれからも大切にしてほしい。・分かる授業づくりに向けた授業改善とともに躓いている児童への個別指導も考えてほしい。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none">・あいさつがよくなったように感じる。大きな声で返してくれる子どもが増えたと感じてうれしく思っている。・コロナ禍で子どもたちが抑えつけられていた生活から、いじめが増えると言われる。いじめの早期対応や経過観察もしていただいているということなので、引き続きよろしくお願ひしたい。・いじめの問題は、(加害児童に) 逆の立場ならどうかと考えさせることが大切ではないか。いじめはだめだ、と教えるのではなく、考えることを大事にしたい。
ふるさと教育	<ul style="list-style-type: none">・創立150周年を機会に愛校心を育む良い機会となった。記念歌をよく口ずさんでいる。・ふるさと教育については、先生方の肯定的な評価が6割止まりなのが気になる。コロナ禍前にすべて同じように戻すのは難しいと思う。しかし、地域のことを知ってもらふ機会として必要であれば協力するのでできる形で取り組んでほしい。・丹波篠山の教育の柱の一つがふるさと教育である。来年度、味間の「ふるさと教育」として学ばせてやってほしいという「人・もの・こと」の検討を学校運営協議会で行う。また、委員さんの中で「地域コーディネーター」を選任する(人選中) ことについて、前向きに協力をしていきたい。

